

干潟の鳥の観察

1. ねらい

- ・水鳥の観察を通して、干潟に親しんでもらう。
- ・干潟を利用する水鳥の観察を通じて、干潟が生息場所になっていることに気づいてもらう。

参考 この活動は、観察のテーマを特定している『干潟の鳥ビンゴ』と異なり、鳥の色や形、行動について自由にじっくり観察してもらうことができる。本手順書の『双眼鏡、望遠鏡の使い方』を参考に、観察道具の使い方を学ぶことができる。

2. 概要

○所要時間	45分
○時期	通年 干潮時(満潮でも鳥は見られるが、休憩している鳥が多い)
○場所	順光で観察できる場所、護岸の上や浜など
○対象	小学校中学年以上
○人数	基本的に問わないが、双眼鏡等の観察道具の数を考慮する。
○資材	倍率8倍程度の双眼鏡、倍率20倍以上の望遠鏡、野鳥図鑑
○事前・事後学習	観察した鳥について記録をまとめ、図鑑等で種類や特徴をさらに調べる。
○応用	たいけんカードの鳥のシルエットを鳥の形の輪郭線だけにし、メモができるワークシートを種類ごとに用意すると、羽の模様や色の特徴等を記録しながら観察ができる。
○安全管理	望遠鏡や双眼鏡で太陽や、水面に反射した太陽を見ないように注意する。夏は帽子をかぶり、日焼け対策をし、飲み物を用意する。また冬はウィンドブレーカーを着る。移動時は、ばらばらにならずに一緒に行動する。干潟では泥が深い危険な箇所もあるので活動範囲と注意点をしっかり伝える。潮汐の時間を把握しておく。

ひがた とり かんさつ
干潟の鳥の観察

双眼鏡や望遠鏡を使うと、よく観察できるよ。



①形を手がかりに、下の6つの鳥の仲間を探そう

②見つけたら、望遠鏡でじっくり観察しよう

③何色の鳥かな。何をしているかな。

カモメの仲間



シギの仲間



サギの仲間



チドメの仲間



カモの仲間



ウの仲間



3. 実施の手順

導入(10分)

- ・干潟にはどのような鳥がいて、干潟で何をしているのかじっくり観察しよう、と参加者に投げかける。
- ・観察の進め方を、たいけんカードを使って説明する。
- ・たいけんカードのシルエットで、「くちばし」・「首」・「足」の長さや形、水かきの有無等の違いを説明し、鳥の種類が大まかに見分けられることを伝える。

〈参考〉くちばし・首・脚の長さ、水かきの有無から鳥の種類を大まかに見分ける

	くちばし	首の長さ	脚の長さ	水かきの有無
ウ	長い	長い	短い	ある
カモメ	長い	短い	短い	ある
カモ	長い	長い	特に短い	ある
サギ	特に長い	特に長い	特に長い	ない
シギ	長い	短い	長い	ない
チドリ	短い	短い	長い	ない

- ・双眼鏡と望遠鏡の使い方(次ページ参照)と注意事項を伝える。
- ・活動の範囲、集合時間と場所を伝える。

展開(25分)

- ・双眼鏡だけでなく望遠鏡も使うように促し、詳しい観察をしてもらう。
- ・一定の時間、観察したら所定の場所に集合してもらう。

まとめ(10分)

- ・どのような姿(色や形)の鳥がどのような行動をしていたか、結果を発表してもらい、共有する。
- ・いろいろな種類の鳥が干潟を餌場や休息場として利用していること、その中には渡り鳥も含まれていて、干潟がないと暮らしていけないことについて、気づきを分かち合う。

4. 指導のポイント

・道具を使い分けて鳥の形、色、行動をじっくり観察してもらう

鳥の体の色や形、首や足の長さは双眼鏡で観察し、ある程度観察できたら、望遠鏡でくちばしの形、行動や仕草をじっくり観察してもらう。水かきの有無は近くで見ないとよくわからない場合もあるが、水の中を泳いでいれば足の指に水かき等がある鳥(ウ、カモメ、カモ等)で、水の中を歩いていけば、水かきのない鳥(サギ、シギ、チドリ等)の可能性が高い。

・図鑑の使い方について

図鑑で観察した鳥の名前を調べるときは、まず鳥の体の形から何の仲間か見当をつける。観察して確認した体の色や形、行動や仕草の特徴について図鑑の記述内容と照らしあわせて調べる。

・干潮と満潮の時間を確認し、鳥の動きの変化を考慮する

潮が引きはじめると、干潟で餌をとるシギやチドリの動きが活発になる。見られる鳥の種類も多い。潮が上がり始めると魚が入ってくるのでウやサギの動きが活発になる。最満潮になると、安全な岸や杭の上で休む鳥が多い。カモは水面でも休む。

双眼鏡、望遠鏡の使い方

使い方はメーカーやモデルによって様々だが、ここでは基本的な操作を紹介する。

※注意事項

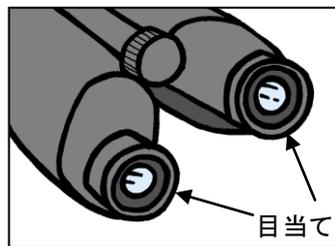
望遠鏡や双眼鏡で太陽や、水面に反射した太陽を見ないように注意する。また、住宅地など人が生活している範囲では、マナーとして使用を控える。

1. 双眼鏡の使い方



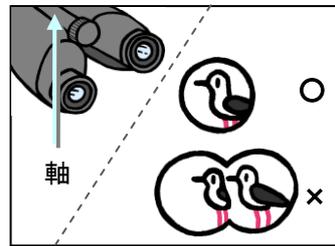
①ひもを首にかける

接眼レンズが上になるように、双眼鏡のひもを首にかける。



②目当てを調整する

眼鏡をしていない人は、接眼レンズの目当てを立ち上げる。(眼鏡の人は反対に引っ込める)



③目幅に合わせる

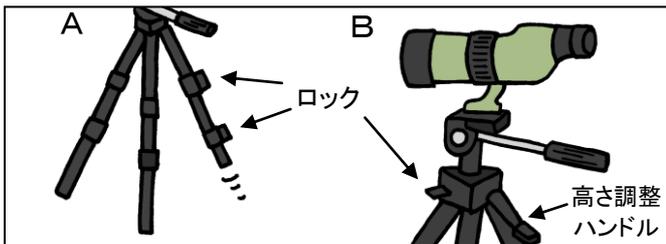
双眼鏡を両手で持ち、本体の中心にある軸を折り曲げるようにして目幅に合わせ、視野が一重の円に見えるようにする。



④ピントを合わせる

本体の中心にあるピントリングをまわし、ピントを合わせる。

2. 望遠鏡の使い方



①望遠鏡の高さを合わせる

望遠鏡の接眼レンズの高さと目の高さが合わない場合は、A:脚にあるロックをゆるめ、脚を伸ばすか縮めて調整する。B:望遠鏡がのっている台の高さを固定するロックをゆるめ、ハンドルを回して台の高さを調整する。



②望遠鏡の方向を定める

望遠鏡の向きを調整するレバーをひねってゆるめ、向きを調整する。目標を定めたらレバーを固定し、ピント合わせに移る。



③ピントを合わせる

ピントリング(普通、本体の中央にある)をまわし、ピントを合わせる。